

2010 年 8 月の東北地方の天候

【 8 月の特徴 】

○記録的な高温

○台風第 4 号の上陸

(1) 2010 年 8 月の概況

月を通して日本付近で太平洋高気圧の勢力が強く、東北地方は晴れの日が多かったが、気圧の谷や前線の影響で、東北日本海側を中心に曇りや雨の日があった。中旬には、台風第 4 号が秋田県に上陸し、その後も低気圧や前線の影響で、東北日本海側を中心に大雨となった日があった。太平洋高気圧におおわれて晴れたことや、南から暖かい空気が流れ込んだ影響で、月平均気温平年差は東北地方で+2.7℃とかなり高くなり、8 月としては 1946 年の地域平均の統計開始以来、東北地方の月平均気温の高い方からの 1 位の値を更新した。また、東北地方の 11 地点の気象官署で、8 月の月平均気温の高い方からの 1 位の値を更新した（タイ記録を含む）。

月平均気温は東北地方でかなり高い。月降水量は東北北部で平年並、東北南部で少ない。月間日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。

(2) 各旬の天候経過

上旬：この期間、高気圧におおわれて概ね晴れたが、期間のはじめは気圧の谷や前線の影響で曇りとなり、雨の降ったところがあった。気温は、南から暖かい空気が流れ込んだことや、晴れた日が続いたため、かなりの高温となった。6 日には、むつで 34.5 度の日最高気温を観測し、日最高気温の高い方からの 1 位の値を更新した。なお、大気の状態が不安定で局地的大雨となったところがあり、2 日は福島県で浸水害が発生し、9 日は青森県と秋田県で土砂災害や浸水害などが発生した。

平均気温は東北北部で高く、東北南部でかなり高い。降水量は東北地方で少ない。日照時間は東北地方で平年並。

中旬：この期間、低気圧や前線、台風の影響で曇りや雨の日が多かったが、期間の後半は高気圧におおわれて晴れた日があった。なお、11 日から 12 日は、台風第 4 号の影響で東北北部を中心に大雨となり、浸水害や土砂災害が発生した。また、14 日から 15 日及び 17 日は、低気圧や前線の影響で東北日本海側を中心に大雨となり、秋田県や岩手県で洪水害や浸水害、土砂災害などが発生した。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で平年並。日照時間は東北北部で平年並、東北南部で少ない。

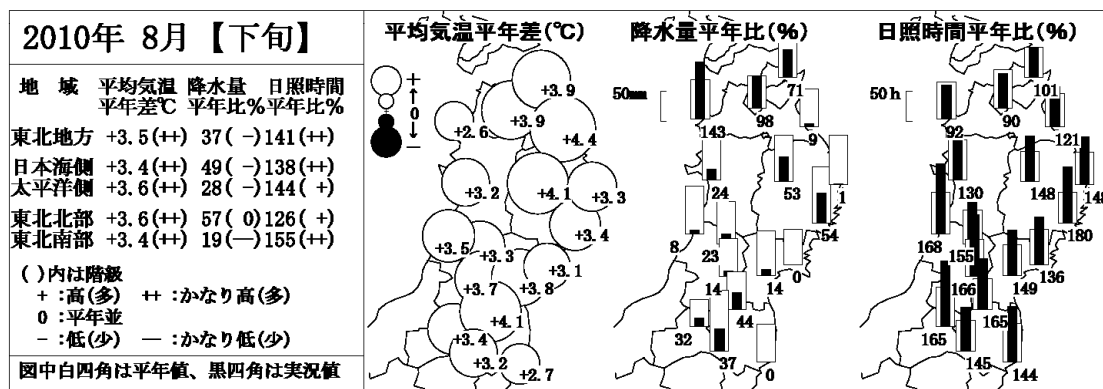
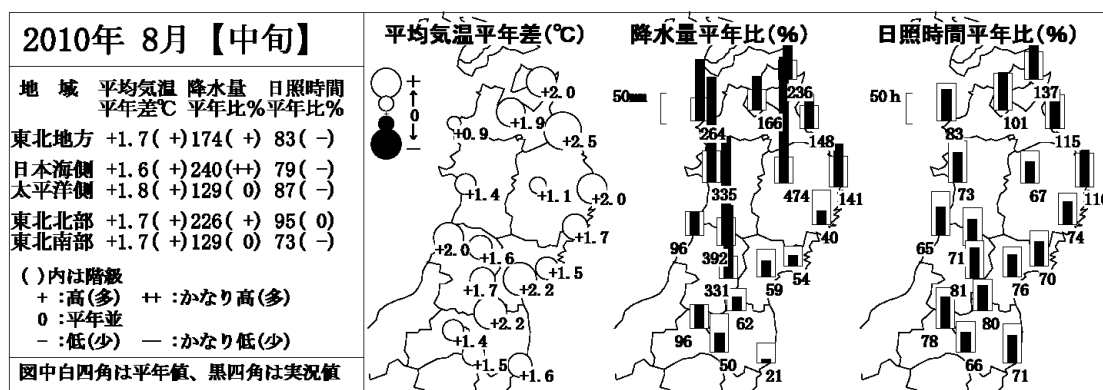
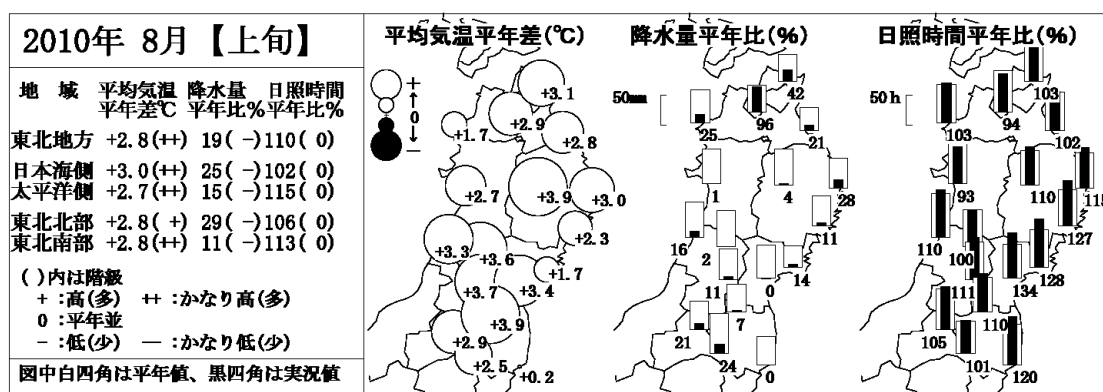
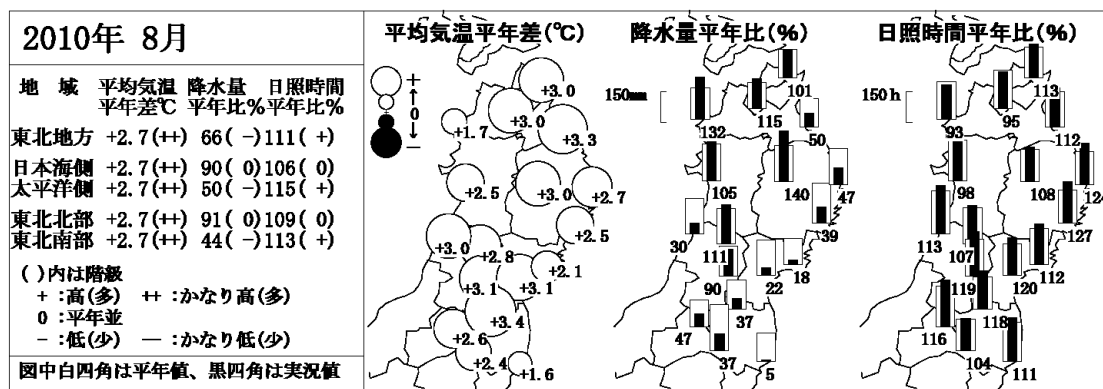
下旬：この期間、高気圧におおわれて晴れて気温の高い日が多かったが、期間の中頃と終わりは前線や気圧の谷の影響で、東北北部を中心に曇りや雨の日があった。24 日から 25 日にかけては、前線の影響で大気の状態が不安定となり、東北日本海側を中心に大雨となった。このため、青森県、秋田県、山形県で浸水害や土砂災害などが発生した。31 日は南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、大雨となったところがあり、青森県、秋田県、岩手県で浸水害や土砂災害などが発生した。

平均気温は東北地方でかなり高い。降水量は東北北部で平年並、東北南部でかなり少ない。日照時間は東北北部で多く、東北南部でかなり多い。

(注) 気候統計値は、東北地方にある 17 地点の气象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。
細分地域については 2 ページ目脚注を参照して下さい。
平年値の統計期間は 1971-2000 年です。階級区分については、3 ページ目脚注 2 を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2010年8月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北部：青森県、秋田県、岩手県

東南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2010 年 8 月の月気候表

地 点 名		平均気温(平年差) 階級			降水量(平年比)階級			降水日数	日照時間(平年比) 階級		
		(℃)	(℃)		(mm)	(%)		≥1mm	(h)	(%)	
青 森		26.0	(+3.0)	＋＊	149.0	(115)	＋	10	181.0	(95)	○
深 浦		24.8	(+1.7)	＋	208.5	(132)	＋	12	172.4	(93)	○
む っ		24.7	(+3.0)	＋＊	141.5	(101)	○	9	172.6	(113)	○
八 戸		25.6	(+3.3)	＋＊	70.0	(50)	－	9	194.7	(112)	＋
秋 田		27.0	(+2.5)	＋＊	191.0	(105)	＋	8	196.9	(98)	○
盛 岡		26.2	(+3.0)	＋＊	249.5	(140)	＋	8	171.0	(108)	○
大 船 渡		25.5	(+2.5)	＋＊	78.0	(39)	－	6	204.9	(127)	＋
宮 古		24.9	(+2.7)	＋＊	85.5	(47)	－	6	205.5	(124)	＋
仙 台		27.2	(+3.1)	＋＊	37.5	(22)	－＊	5	187.1	(120)	＋
石 巻		25.6	(+2.1)	＋＊	23.0	(18)	－	4	199.1	(112)	＋
山 形		27.7	(+3.1)	＋＊	134.5	(90)	○	10	220.4	(119)	＋
新 庄		26.7	(+2.8)	＋＊	194.0	(111)	○	8	190.2	(107)	○
酒 田		27.9	(+3.0)	＋＊	53.5	(30)	－＊	6	239.5	(113)	＋
福 島		28.6	(+3.4)	＋＊	53.0	(37)	－	7	188.7	(118)	＋
若 松		27.4	(+2.6)	＋＊	62.0	(47)	－	7	231.1	(116)	＋
白 河		25.7	(+2.4)	＋＊	84.0	(37)	－	9	159.5	(104)	○
小 名 浜		25.5	(+1.6)	＋	7.0	(5)	－＊	1	215.6	(111)	＋

(注) 1. 平年値は1971～2000年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

＋:高い(多い) ○:平年並 －:低い(少ない)

各階級の区分値は、1971～2000年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。

また、値が1971～2000年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「＋」に＊を付加した。この場合には

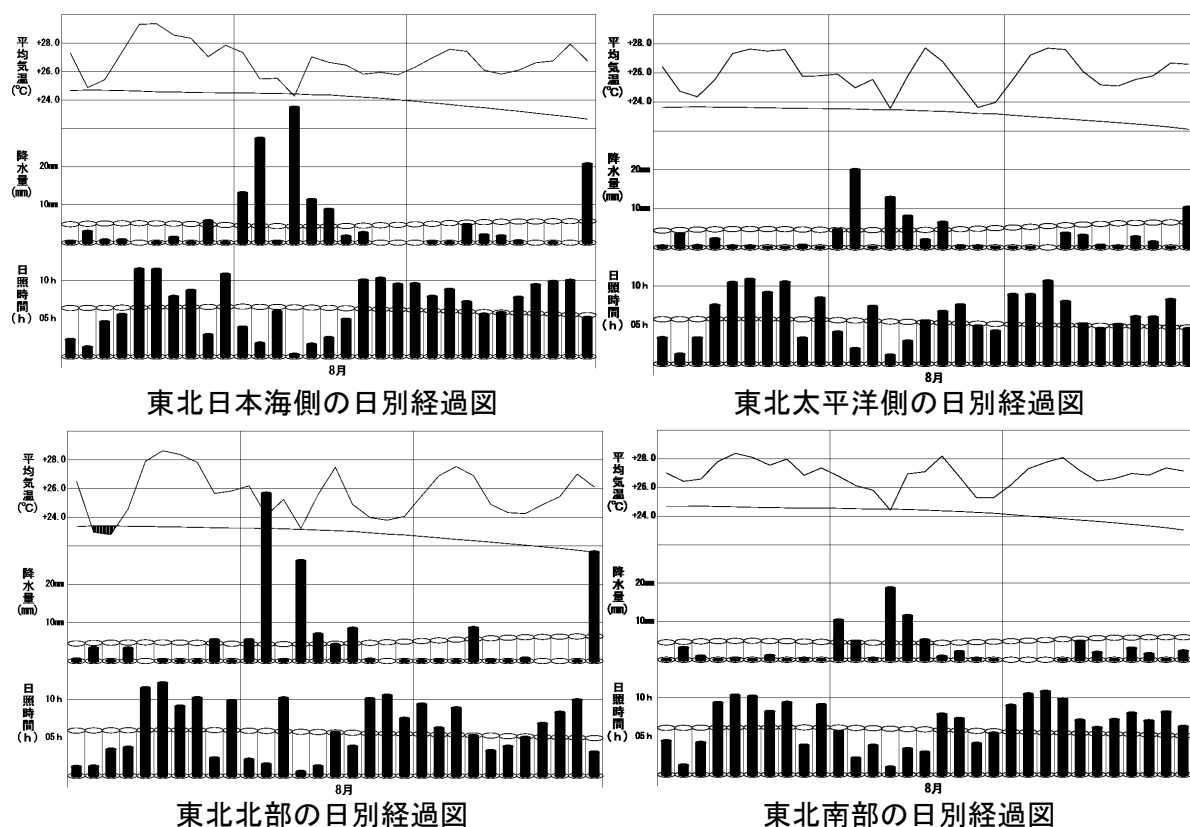
かなり高い(多い) かなり低い(少ない)

と表現できる。

3. 値の横に) や] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。) 付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが] 付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

(5) 2010年8月の日別経過図



気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

(6) 2010年8月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新

順位	地点名	平均気温 ℃	平年差 ℃	これまでの最高 ℃ (西暦年)	開始年	平年値 ℃
1	新庄	26.7	+2.8	26.3 (1994)	1958	23.9
	若松	27.4	+2.6	27.3 (1994)	1953	24.8
	青森	26.0	+3.0	25.9 (1994)	1882	23.0
	むつ	24.7	+3.0	24.4 (1985)	1935	21.7
	八戸	25.6	+3.3	25.3 (1985)	1936	22.3
	盛岡	26.2	+3.0	25.9 (1985)	1924	23.2
	酒田	27.9 =	+3.0	27.9 (1985)	1937	24.9
	山形	27.7	+3.1	27.4 (1985)	1889	24.6
	仙台	27.2	+3.1	26.6 (1994)	1927	24.1
	福島	28.6	+3.4	27.9 (1985)	1889	25.2
	白河	25.7	+2.4	25.4 (1994)	1940	23.3
3	大船渡	25.5	+2.5	26.0 (1994)	1963	23.0
	秋田	27.0	+2.5	27.3 (1999)	1883	24.5
	宮古	24.9	+2.7	25.1 (1985)	1883	22.2

月平均気温低い方からの順位更新
3位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新
3位以内はなし

月降水量少ない方からの順位更新

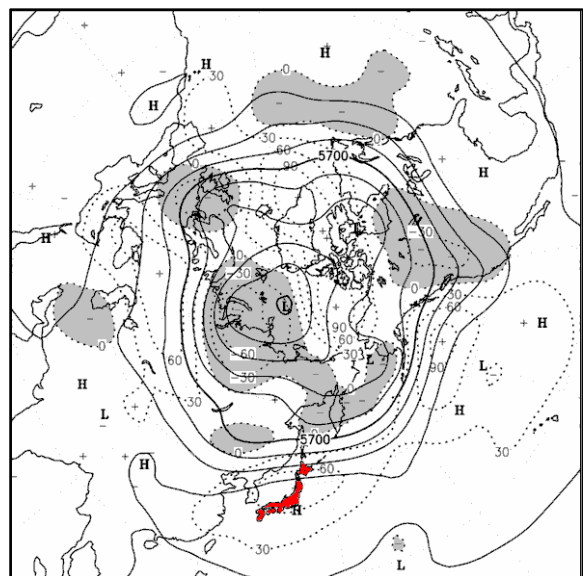
順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最小 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
2	小名浜	7.0	5	5.0 (1984)	1910	141.7

月間日照時間多い方からの順位更新
3位以内はなし

月間日照時間少ない方からの順位更新
3位以内はなし

(7) 2010年8月の循環場の特徴

500hPa 高度では、日本付近は明瞭な正偏差となったが、中国東北区やカムチャツカ半島付近は負偏差となった。亜熱帯ジェット気流は平年よりも北に偏っており、日本付近では太平洋高気圧の勢力が強く、東北地方は月平均気温がかなり高くなった。また、日本の北では等高度線の間隔が狭くなっており、東北日本海側を中心に気圧の谷や前線の影響を受けた日があった。



2010年8月の平均500hPa高度
実線は等高度線：60m 毎、点線は偏差：30m 毎
陰影部は負偏差（寒気に対応）